

2019年度

学校評価（自己評価）

目標	
	子どもが集団の中で、遊びを楽しみ、育ち合う。
計画	
	<p>○幼稚園生活の中で、子ども達一人ひとりの“個”の存在を大切にしながら、物事に向き合う力や、集団の中の一人としての意識を育てる。</p> <p>○生活する基礎を培い、生きる力を養う。</p> <p>○今ある環境を活かし、親育てをしながら、子どもの心を育む。</p>

<今年度の取り組み>

- ・新園舎、そして認定こども園となり、心新たなスタートではあるが、当園の特色でもある自然環境の整備（園庭、飼育舎、畑など）と教育をどのように生かしていくかを考える。
- ・1号と2号との保護者間の温度差をどのような形で差をなくすか、その方法として“係”という役割を通して、全園児の保護者に園の活動への協力をお願いし、理解を高める。
- ・園舎の建て替え工事は完了したものの、園庭整備に時間がかかり、7月までは畑をミニ・ランドとして活用し、園庭は斜面以外の一部分を開放し過ごす。斜面には大きな滑り台を、斜面中腹には既存の木造遊具（ツイインタワー）を設置する。裏山には砂場や汽車の遊具を設置し、対象年齢を場所によって分けるようにする。そして、12月には屋外用のトランポリンや鉄棒を設置する。広い園庭を十分に活用し、子ども達がさまざまなところで好きな遊びを楽しむことができる最高の環境がようやく完成する。
- ・園庭でおもいきり遊べるようになって数か月が経った2月後半、新型コロナウイルスの感染が広がり、突如臨時休園となる。なんとか卒園式は行うが、例年とは違い、証書を渡しできるだけ短時間の式となった。年長児にとってはとても残念な最後となる。
- ・臨時休園中でも2・3号認定児の保育は通常通り行う。検温やマスクの着用、手洗いの徹底、遊具等子ども達が触った部分の消毒を行う。
- ・こども園のスタートとともに、教師の働き方を見直し、ICTはもちろん、パソコンを一人一台導入し、日誌や記録など簡単に作成管理できるようにすることで、勤務時間の短縮を図る。
- ・ホームページをリニューアルし保護者連絡をメールと共にホームページから発信するようにする。グレース通信やBOG、学年だよりなど。また、スマートフォンにも対応しているため、見やすく手紙の削減にもつながっている。

評価項目		
心身の健全な成長（あそび）	体を十分に動かしてあそびを楽しむことができる。	○
	好きな遊びを見つけて存分に楽しむことができる。	○
	園の職員全員で子どもを育てている。	△
	様々な活動に挑戦する中で、友達と刺激し合い達成感を味わうことができる。	○
	他学年との交流をもち、育ちに生かしている。	○
	自分に自信を持ち、友達を認めることができる	○
	思いを言葉で伝え合い、豊かな表現力を身に付けることができる。	○
	遊びを通して相手の気持ちに気づき折り合いをつけることができる。	○
	戸外での遊びを通してバランスの良いからだづくりができています。	△
	子ども達自ら遊びを工夫し、ルールや役割のある遊びを作り出す。	○
じっくりと遊びの時間をもっている。	○	
教育環境（自然）	園内の自然（樹木、果実、花、動物、虫、畑の野菜）を通して季節を感じることができる。	△
	いきものに接することで“命の大切さ”を知ることができる。	○
	畑の野菜を育てることで生長、収穫、食べ物のありがたみを知る。	△
	夏期等、あずかりの体制が整えられている。	○
	木の実や落ち葉などの自然物を使って遊ぶことができる。	○
	実際の自然に触れ、五感を使って感じてみる。	△
	教師自身が園庭の木々や草花を知り、子どもの興味関心の動機づけができる	△
	起伏のある広大な敷地で遊ぶことができる	△
保健衛生（食育）	植物や動物を育て、その成長に興味関心をもつ。	△
	季節の伝統料理を頂く。	○
	食に対する意欲をもち、マナーを身につける。	△
	旬の食材や自園で採れた野菜を味わえる。	△
	アレルギー対応ができています。	○
	専任の保健師がおり、怪我の対応（簡易処置）を適切に行える。	○
	健康に過ごすための季節ごとの注意点を看護師や教師から教えてもらう。	○
食育を保護者にも考えていけるように栄養士との相談会を企画し家庭での食育に園が力を発揮する。	○	
保護者との連携	家庭訪問を行い、子どもが育つ環境を理解している。	○
	子育て相談、カウンセリングなど、保護者を支える体制が整えられている。	○
	ホームページで日々の子どもの姿を知ってもらう。	○
	保護者に、より保育のねらいなどを理解してもらう機会（参観や講座、懇談、グレース会、行事など）をもつ。	○
	クラスや個人の様子などを、電話やお便りで保護者に丁寧に伝えられるよう努めている。	△
	活動の過程を見てもらう機会をもつ。	○
就学準備	グループ活動、リーダー活動を通して責任をもって行動することに気づく。	○
	文字、数字に興味をもつために、生活の中に工夫して取り入れていく。	○
	一つの目標にみんなで取り組み、達成感、満足感を味わう。	○
	一人ひとりの違いを認め共に育つようすすめていく。	○
	基本的な生活習慣を身に付ける。	○
その他	規範意識を身に付ける。	△
	卒園生へも園へ来ることのできる機会を与え、その後のつながりをもっていく。	○
	職員としての品位を保つよう心がけている。	△
	個々の教師としての向上心、同僚との意識の高め合いが感じられる。	△
地域との関わりをもち、地域とも連携し、子育てを行っていく。	△	

<今後の課題>

- ・園庭を十分に活用し、しっかり体を使って遊ぶことを見直す。
- ・自然環境を生かした保育
- ・保護者との連携と保護者同士の関係性
- ・「認定こども園」への理解度の向上、現在ならコロナ等、柔軟で、安全な保育を進められるよう対策を練り教職員の理解と保護者の理解と協力を得ていく。
- ・2号、新2号の教育時間外の保育の在り方を見直し、教育的効果も取り入れていく。
- ・働きやすく、働きがいのある、職場を目指し、すべての職員が気持ちよく働ける環境を構築していきたい。また、専門職としての知識や技能が身に付くよう、研修へも積極的に参加できる環境にしていきたい。